

令和元年度第1回豊田市環境審議会 自然共生部会 会議録

【日時】 令和元年7月4日(木) 午後3時00分～5時00分

【場所】 豊田市役所 東庁舎 東41会議室

【出席者】

部会長 島田 知彦 (愛知教育大学教育学部理科教育講座 准教授)

篠田 陽作 (名古屋経営短期大学子ども学科 講師)

大熊 千晶 (日本野鳥の会 レンジャー)

渡部 教行 (豊田市自然愛護協会 会長)

山内 徹 (市民公募)

(事務局) 塩谷環境政策課長、疋田環境政策課副課長 (ほか)

【欠席者】 なし

【傍聴人】 なし

【次第】

1 環境政策課長挨拶

2 部会長の選任

3 委員紹介

4 議題

・環境基本計画の自然共生社会における前年度取組について (協議)

5 その他

1 環境政策課長挨拶

2 委員紹介

3 部会長の選任

島田知彦委員を事務局が指名し選任。

4 議題

- ・環境基本計画の自然共生社会における前年度取組について（協議）

事務局 （資料1～3に基づき説明）

事務局 自然共生社会の施策は13、事業は53ある。施策の進捗状況は、施策13のうち3つが「遅れ」、残り10が「順調」と内部評価した。

進捗状況が「遅れ」と評価した施策がある部分を中心に議論いただきたい。

【施策の柱2.2（生物多様性への理解の促進）説明】

委員 市民参加型の調査は、具体的に何をやっているのか知らない。PR不足ではないのだろうか。どこでいつ何をやっているのか。

また、調査といっている以上、いい加減にやっていると調査そのものが有効でないと指摘されうる。トウカイタンポポやセイヨウタンポポの割合など、身近な植物でも、長期間ずっと同じ調査によってデータを取っていくことも重要では。蟬も川の生き物でもではなく、中長期的にみていくという言い方やPRが必要では。広がっていかない。

委員 同意する。市民参加生き物調査の冊子は、図鑑のようになっていてわかりやすいが、今年はこの生物を重点的に調査すると決めてやるとより良いのでは。調査は何年か続けてやらないと成果は出ない。今年の結果はこうでした、と参加者にフィードバックすれば、次の人の参加につながるのでは。個人の行動が総合的な結果につながったことを見せられると良い。

委員 毎年度の結果は、何らかの形でほしい。何か一つのことにと絞っても良いのでは。

委員 多くの人に参加しやすい点で、昨年度実施した写真展の手法は良かった。参加者が少なかったため今年度は実施しないようだが、共有しやすく、撮影も簡単な点が特に良い。子どもが行動したことは、親は気にする。

委員 「生物多様性の変化を見ている」という意味でいえば、どうか。

事務局 市民参加生き物調査は、何年も継続している。自然にふれあうきっかけになれば良いと考えているが、より実のあるものにしたい。こういった種類に絞ったら良いのか意見を聞きたい。

委員 例えば桜。異なる品種は、本来異なる開花時期のはずなのに、このところ同時開花している。

委員 日本自然保護協会が実施している事業を参考にしては。一昨年度はセミの抜け殻、昨年度はアリだった。どこでも見られるもので身近なものが良い。セミなら街なかではクマゼミ、自然観察の森だとニイニイゼミがいる。

事務局 豊田市内だけでも特徴が出るのか。

委員 自身の経験になるが、何らかの特徴は出ると思う。

委員 これまでの議論と異なるが、市民参加生き物調査は、普段よく見ていないところを見てほしい、という目的もある。名古屋市天白区の手白川で初めて実施した際、川がごみに溢れていることに住民自らが気づき、ごみを取ることから始まり、徐々にきれいになった。外来植物の防除もやっている。

- 委員 行政が主導するのではなく、住民が自ら生き物調査するのが理想形。調査だけと限定せず、専門的になりすぎないことも必要。
- 委員 天白川では、昔いたシジミが東海豪雨の後に出てきたことに、同じく住民自ら気づいた。
- 部会長 調査自体は、市民から調査を募って、という意味合い。一般的には、広く情報を集める形式はフィードバックが疎かになりがち傾向がある。実際に分析やフィードバックができているものは、誰か専門家が関わっている。ただ、専門家でもその人の専門領域以外では、難しいだろう。この人ならこういうことができる、という人を見つけてくるものではないか。
- 委員 行政だけでやるのは、マンパワー的にも難しい。継続的に生物多様性を実現していくなら、市全体の生物多様性を統括する中心的な部局（機能）が必要なのでは。自然観察の森は現地のみを見ており、矢作川研究所は川そのものを扱う領域としており、豊田市の生物多様性を統括しているところが無い。
名古屋市は生物多様性センターがある。全分野の専門家を集めて、というのではない。
- 委員 名古屋市のセンターは、市民発のもの。
- 事務局 自然観察の森は、施設自体は東山だが、市全体の自然を対象にしている。
- 委員 一般市民は、現地の自然を見るものだけだと感じているのではという印象。看板の掛け方かもしれないが、対象域が広いのならもっと継続的に施設のPRをすべき。
- 委員 10人に2～3人は、自然観察の森を知らないと感じる。宣伝が足りない。
- 委員 環境政策課は、興味に「火」をつけ続けることが必要で、「火」を消さないようにすることではない。失敗することも大事。
- 事務局 コミュニティが無いと興味の「火」はつけられないと考えている。燃えた結果が市民の行動につながる。若い世代は、そもそも野外活動自体が少ないとみられる。
プロのモニタリングを今年度実施する。経年変化がわかるのに活用しきれていない、というのは一部ある。追加で質問だが、逆に、調査結果を活用できる団体がいるのか聞きたい。また、市民参画を増やす方法はあるか。
- 委員 エコットの出前講座を自然観察の森で同じことをやろうとしてもできない。人を集めようと思ってもできない。
- 委員 学校の先生に自然学習について教えているが、その半分は屋外活動が苦手な様子。まずは自然を好きな人を増やすことが大事。
- 委員 交流館くらいのエリアベースで増やしていければ。交流館での自然に関する講座は、過去には非常に多くあったが、今はほぼ見かけない。
- 委員 自然観察の森に小学生が来るが、学校によっては、その学校周辺の身近な自然を見た方が良いのではと感じることもある。
- 委員 7～8年前にエコットで学校の先生を相手に講座を開催した。事後アンケートは好評だった。こういう講座が無かった、少なかったという声が多かった。
- 委員 猿投や六所に行けば山に登れる講座がある、というのが当然だった。
- 委員 調査や自然学習をやりたいがどうしたら良いのかわからないという人が多い。自然観察の森じゃないとできないのでは、という発想の方も多い。巣箱の観察会をやったが、参加者からは好評だった。需要が実はあるのでは。
- 委員 生き物探しをやろうと思えば、名古屋のど真ん中でもできる。例えば昆虫5種類を探してみようなど。蚊やハエでも良い。できることを知るところから先が大事。蚊がいるということは、ボウフラがある。水があって、落ち葉があるはず、という連想が出てくる。

- 部会長 近年は、事故への対応など、主導する人の責任が重いというのもある。
- 部会長 話が離れるが、博物館は自然の専門家は入っているのか。
- 事務局 専門家を交えて、文化財課が進めている。
- 委員 博物館は、多くの大学が過去に持っていた。効率よく、きちんとやらないといけない。せめて県単位で設置するものではないかと個人的には感じている。
- 委員 標本にも関係すると思う。標本も管理しているからには、きちんとやらないといけないとは感じている。
- 委員 収集や整理は大変。特に個人からの標本の寄付は、シビアに見なければいけない。
- 【施策の柱 2.4（豊かな森林づくりと市街地の緑化等の推進）】
- 事務局 （資料をもとに説明）
- 委員 水源涵養の基金を使って何をできたかではなく、水源涵養林を維持することが第一義では。現状より水循環の状況を向上していくためのこと（プラスαの部分）が進んでいないから「遅れ」、というのはどうかと感じる。水源涵養林がどれくらいあるかなど、より大きな視点で見ても。
- 委員 ひと時代前の施策の名残り。緑被率を高めるなどもそう。スマートシティの観点で考えると、都市も小さくする観点から緑化は考慮されない。
- 委員 中心市街地だけではない。西部緑地の緑の保全ができていないのでは。市として戦略的にやっていかないと後で取り返しがつかなくなる。
- 委員 名古屋市でもやっているが、答えが出ないのが現状。
- 事務局 計画のつくりとしては、森と市街地緑化の大きく2つ。ざっくり言えば、市街化区域と市街化調整区域の区分けで、更に都心部分は力を入れていくということ。民有地の緑地が補助制度で増えていないから、全体が「遅れ」ではないかもしれない。
- 委員 戦略が無いから、施策が非常に中途半端に見える。今の状態では、環境の施策としてみえてこない。例えば、古い家壊して3軒建てることを規制した方が早いとも感じられる。できない緑化をやれというから、「遅れ」という評価につながる。
- 委員 自然を守りたい領域について、どの程度保全されているのか、が重要。
- 部会長 指標が適切かという議論もあると思う。しかし管理の観点から、何らかの指標は必要。
- 事務局 まちの状態指標の設定についての議論だと考えられるが、同指標が必要なら見直していく。
- 委員 川が渇水化の傾向にある。農業用水や工業用水が取り込んだあと、川に流れてない。このような下流部と、上流部の森が水を貯められないこと、どちらも問題がある。上流部・下流部を一体的に考えての水循環の推進では。都市部の雨をいかに上流部に還すかが課題。
- 委員 施策として実現可能な案を出してほしい。
- 事務局 その他の施策について、意見は無いか。
- 委員 観察の森は、講座をやっているだけではもったいない。エコットと一緒にやるような事業はあるか。
- 事務局 自然観察の森、環境学習施設エコット、とよた市科学体験館、トヨタの森などが、情報交換する環境学習連携会議を実施している。
- 委員 生物多様性の理解度は、その用語を知っているかという程度で回答されているのでは。
- 委員 蚊も蜂もハエもいないと困る。そういうものだ、とわかってもらうのが、環境教育であり生物多様性を理解するということでは。理屈と知識だけではない。人の感性が必要。

委員 生物多様性とは例えば、ラムサール条約湿地には蚊や蜂もいるが、人が来るから殺虫するのではなく、気を付けて見に行きましょうということ。

部会長 以上のことを事務局で取りまとめて、本会議に諮る。

委員 (了承)

5 その他

特になし

以上